

氏名・学年	〇〇 〇〇 （〇〇小学校 5年 女）	本人の願い	・友達と一緒に楽しく遊んだり、勉強したりしたい。		記入者	〇〇 〇〇
保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできることを増やして、学校生活を楽しんでほしい。</li> <li>・友達と遊んだり、話をしたりすることが増えてほしい。</li> </ul>					
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときに自分から支援の依頼ができるようになる。</li> <li>・自分の得意な学習のスタイルを知り、自ら使えるようになる。</li> </ul>					
区分	児童の実態	短期目標	指導内容・指導方法（手立て）	評価		
健康の保持						
心理的な安定						
人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関係がうまくいっているが、作業をしたり、移動をしたりする時など、できないことがあっても自ら助けを求めることができず、黙ったままできていることがある。（3）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときには、周囲の人に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を使ったり、サインを決めたりと、あらかじめ、困ったときの対処の仕方、伝え方の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ決めておいたサインを使って、困ったときに担任に伝えることができるようになってきた。今後は、徐々に援助を求める対象者を広げ、自分の思いがどこでも誰とでも伝わるようにコミュニケーションボードの使用など、伝える手段を増やしていく必要がある。</li> </ul>		
環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カスタネット型のはさみを使って直線を切ることができる。（4）</li> <li>・数多く書かれてある文字や図形の中からひとつの文字や図形に注目することが難しかったり、文章を読むときに行を読み飛ばしたりすることがある。（2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や図形を正しくとらえられるよう、自分に合った手段を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの文字や図形だけを取出して輪郭を強調したり、行に合わせた枠を使ったりするなどのいろいろな方法から、本人がとらえやすいものを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形は、輪郭を強調すると見やすくなるが、縦、横、斜めの線がある図形は把握しづらいようである。また、文章を読む際は、行に合わせた枠を使っていたが、定規をあてることで読めるようになってきた。フォントは、ゴシック体が分かりやすいようである。</li> </ul>		
身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝が伸展しにくく、足首も硬いため歩行時に転倒することがある。（1）</li> <li>・片手で手すりを持ち、ゆっくり階段を昇降することができる。（4）</li> <li>・筆記用具を使って書くことができるが、力が入りすぎて動かし方がこちなくなることもある。（3）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝、足首の可動域が狭くならないように維持する。</li> <li>・自分の使いやすい補助具を用いて書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の自立活動（10分×5日）の時間に、外部専門家（PT）から教わった股関節・膝・足首の曲げ伸ばし等のストレッチを行う。</li> <li>・片足に重心をかける、ゆっくりと重心を移す等の歩行、階段昇降に必要な動きを練習する。</li> <li>・鉛筆用のグリップを付け、握りやすくしたり、カットアウトテーブルを使用して姿勢を安定させたりして、肩や肘の力を抜いて書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝ストレッチを続けることで、膝、足首とも4月当初の可動域を維持できている。また、足の重心移動を意識することができるようになり、転倒することが減ってきた。</li> <li>・100円ショップで購入したグリップを鉛筆に付けることで、握りやすくなった。また、机をカットアウトテーブルに変えると、机上に肘を置いて安定した姿勢がとれ、肩や肘の力を抜いて楽に書けるようになってきた。</li> </ul>		
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内言語や言葉の理解は困難でないが、話し言葉が不明瞭であったり、最初の一言を発するのに時間がかかったりすることがあり、発表の場面で消極的になっている。（2）（4）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器を用いて自分の考えを発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器に文章を入力して再生する方法を用いて、自分の考えを伝える練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の場面で、あらかじめICT機器に文章を入力しておいたものを再生する方法をとることで、自分の考えが友達に伝わり、安心した様子が見られた。苦手意識が少し和らぎ、自分から発表しようとする気持ちが高まりつつある。</li> </ul>		

※自立活動の区分・項目は、全て記入する必要はなく、児童生徒の実態に応じて選択します。

※該当する自立活動の項目を（ ）内に表しています。

教科等	児童の実態	短期目標	指導内容・指導方法（手だて）	評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語が好きで、登場人物の心情を読み取ることができる。</li> <li>・3年生の教科書ではあまり見られないが、5年生の教科書の文章では行飛ばしや、勝手読みが見られる。</li> <li>・漢字の書き間違いが多く4年生の漢字は半分程度習得している。また、書くことへの苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った方法で、教科書やプリントを読んだり、漢字を書いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間に学んだ、ゴシック体の教材や、行に合わせた枠を使うなどの方法を取り入れる。</li> <li>・文字を書く際には、グリップ、滑り止めシートやクッションなどを活用し、安定した姿勢を保てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行に合わせた枠を使うことで、教科書やプリントが読みやすくなってきた。また、ゴシック体を使用することで漢字が見やすくなり、書き写すなどの活動は以前より苦手意識がなくなっているが、画数が多い漢字は課題が残る。今後は、偏と旁に分けたり、漢字の特徴を言葉で説明したりするなど、覚えやすい方法を検討する必要がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・47都道府県の名称と位置を正確に覚えることができる。</li> <li>・地図やグラフ等の資料から、必要な情報を見つけ出し読み取ったりすることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図やグラフから必要な情報を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間に学んだ、見る範囲が限定できる枠を使ったり、必要な箇所をカラーで拡大コピーしたりして、情報を読み取りやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枠を使うと、どこに注目したらよいか分かり、地図記号を見つけたことができた。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に示された空間図形を見て、辺や面の位置関係をとらえることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間図形における辺や面の位置関係をイメージすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体模型を用いて、特徴のある部分を触ったり、見取り図や展開図と見比べ、位置関係を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体模型を用いて、頂点や辺、面を触ったり、展開図を組み立てて立体にしたことで、位置関係をとらえることができた。</li> </ul>
その他 特記事項	<p>テストについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書字に時間がかかるため、実施時間については、他の児童の1.3倍の時間を確保し別室で受験している。</li> </ul>			

※各教科については、児童生徒の実態に応じて選択します。